

第 6 回

円山動物園リスタート委員会

会 議 録

第6回 円山動物園リスタート委員会

- 1 日 時 平成18年12月18日(月) 13:30から15:00
- 2 場 所 円山動物園内 動物園プラザ
- 3 出席者 委 員：大谷薫、岡田典子、きくち美由紀、小林廣司、小宮輝之、高木晴光、服部信吾、原はるみ、原田昭、山本光子
事務局：円山動物園園長、種の保存担当部長、管理課長、飼育課長 ほか
- 4 議 事
 - (1) 構想案(中間報告)の決定について
 - (2) 次回議題と日程調整

1. 開 会

原田委員長 それでは、暮れの非常にお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

早速でございますが、第6回円山動物園リスタート委員会をこれから開きたいと思えます。

きょうの出席者について、園長からお願いします。

金澤園長 きょうは、大川委員、斉藤委員、それから笠委員の3名の欠席ということで、13人中10名のご出席をいただいております。

それから、資料の確認ですが、皆さんに事前に送らせていただいたものは、資料1の基本構想案の中間報告というものでございます。そのほか、きょうは、資料2として主な検討課題、資料3として円山動物園子ども調査隊の実施報告書というものを配付しております。資料については、この3点でございます。

2. 議 事

原田委員長 それでは、まず最初に、ワークショップ、子ども調査隊の資料からということによろしいでしょうか。

金澤園長 私の方から説明させていただきますが、まず、大きい資料をごらんいただきたいと思います。これを全部見るのはちょっと大変なので、お手元にA4の裏表のもので簡単に説明させていただきますと思います。

これは、子どもたちから、動物園に対する意見やアイデアを募りまして、基本構想の方に反映することを目的として、去る12月9日の日曜日に、みんなで考えよう円山動物園子ども調査隊というワークショップを実施しました。

これには、小学校4年生から中学校2年生までの児童生徒28名に参加していただきました。そして、ワークシートに記入してもらったものをA3の大きな資料にまとめたのがお手元に配付された資料でございます。

今回は、主に動物と来園者の快適さという視点で、中間報告の中にもございますが、円山メソッド、1段目、2段目の部分を検証したというものでございます。

28人というのは、新聞等に載せて、電話で申し込みいただいた方々ということになっています。

最初は、全員で円山動物園の中心施設である熱帯動物館を調査した後、五つのグループに分かれて各動物舎を調査しました。そして、最後に、裏側探検を実施しております。その途中で、ワークシートというか、調査報告書をそれぞれ書いていただきながら、また飼育員と質疑をしながらまとめさせていただいたものです。

主な意見としまして、熱帯動物館のところでは、動物の快適さの視点からは、狭い、コンクリートでできている、掃除を徹底してほしいなどのことが書かれております。それから、来園者の快適さの視点では、あそこの熱帯動物館そのものの雰囲気ちょっと暗い、

くさい、それから、ライオンやトラのようなガラス張りをふやして、看板をもう少し見やすくしてほしいというのと、特に小学校の子どもからは読み仮名を振ってほしいという意見がございました。

その他としては、動物の行動の特性を見せられる動物舎にしてほしい。それから、動物園にいる動物、特に熱帯動物館にいる動物は手でさわれないものですから、毛皮を展示してはどうかというアイデアもいただいております。

それから、各動物舎では、エンリッチメントとか見せ方、展示の方法としてのガラス張りとか、水中の行動を見せたい、それから距離感などのことが言われています。さらに、ちょうど9日の日はカラスが多かったので、カラス対策が必要であるという意見もいただいております。

それから、3点目では、動物園全体についていろいろご意見をいただいております。

遊園地より動物園を主体して、そして園内を1周できるような乗り物が欲しい。それから、触れ合い体験をふやしてほしい、案内板の地図がちょっと複雑だと。それから、冬ということもあって、冬の特徴的な問題なのですが、つららが危険なのでちゃんと落としておいてくださいという指摘がありました。

全体的には、ここの委員会で議論されているような内容が子どもたちから出ていたということでございます。これは、後で私どもで整理しながら、細かいところは実施の方にきちんと反映させていきたいと思っております。

内容について、後ほどで結構ですが、見ていただければと思います。これは、項目が全部で三百何件かあります。ここで内容を説明しているとちょっと時間がかかりますので、概要だけを報告させていただきました。

原田委員長 ありがとうございます。

この報告書全体を見る時間がないので、今の実施報告概要について、何か気がつきましたことはございますか。

この小・中学生の1日の見学でなかなか厳しい指摘をちゃんとされていますね。びっくりしました。

金澤園長 特に、子どもからの視点というのは厳しいですね。大人だと結構遠慮しながら書いてくれたのですが、ストレートに書いてくれます。

原田委員長 素直に書いた結果だと思います。

大谷委員 この調査票は、その場で子どもが自分で書いたのですか。

金澤園長 そうです。

午後からだったのですが、4時までの中で、現地を見ながら、書く時間が45分ぐらいありました。そして、班ごとにきちんと整理してまとめて、班の中でも、座りながらやって、各飼育委員に「これはどうなんですか」と質問をしながらまとめていました。中には、イラストまできちんとかいた人もいます。

そういう意味では、こういう子どもの意見を聞いておく機会が必要だと思いますので、

そういった取り組みを展開したところです。

原田委員長 ほかにありますでしょうか。

実は、私の大学でも、今、大学1年生成りたての80人がおりますが、見せ方について1回、それから、感性的なかわりというふうにちょっと特化した質問をしまして、動物たちとどのようなかわりを持てればいいのかという質問をした先生がいらっしゃいました。

二つの展示の新しい提案を求めるといふことと、感性的なかわり方についての提案を求め、この二つの質問に対して、現在、まとめています。80名ですから、量が結構ありまして、なかなかまとめ切れなくて、きょうまでにまとまらなかったのですが、1月の初めぐらいにはほぼまとめられると思います。できましたら、また概要程度をご紹介したいと思っています。

それでは、こども調査隊についての概要報告については、よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

原田委員長 ありがとうございます。

それでは、次の議題に入りたいと思います。

きょうは、構想案の中間報告といたしまして、園長からご質問いただきましたが、内容については、これは前もって配付してあるものですね。

金澤園長 はい。

原田委員長 それでは、園長の方からお願いいたします。

金澤園長 それでは、私の方から、中間報告の内容を説明させていただきます。

報告書そのものでお話しさせていただきます。

これにかかわって、A3判のものがありますが、これは、前回お出ししたものを今回バージョンに置きかえただけでございます。基本的にはほとんど変えておりません。

それでは、中間報告の方のお話をさせていただきたいと思います。

これは、前回、第5回のときにいろいろご意見いただいたものを修正しております。そして、第5回のときにしり切れトンボになった後半の部分等もでございます。そういったこともあって、あの後にちょうだいしたさまざまなご意見をこれに反映させていただいて、今回提出しております。

先ほど、別紙で目次の方も配付しましたが、これは最終的なときにきちんと1冊にまとめさせていただきたいと思います。

それから、後半の方に入ってくるのですが、イメージパースがまだできておりません。これは、1月の中旬くらいまでには何とか入れて、最終的にパブリックコメント、市民のご意見をいただくときにはきちっと入れさせていただきたいと思います。

それから、前回は、15ページまでの議論しか終わっていません。それで、16ページ以降の部分は、事業展開の方向性のハードとかマネジメントの部分については、第5回のときにお願ひしたのですが、後ほどご意見をいただければ、それに合わせて修正するなり整理しますということをお願いしたのですが、特に目立って大きなご意見はございません

でしたので、きょうは、そういった形を出していますので、16ページ以降もご議論なりご確認いただき、最終的なものにさせていただきたいと思います。

それでは、中間報告書に基づきまして、前回の資料から大きな変更になったところを説明させていただきたいと思います。

まずは、3ページ目でございます。

(4)のところに、園内施設・アメニティというものがございます。ここの部分では、前回は動物舎の記載順が便益施設の後になっていまして、先に出した方がいいよというご意見をいただきましたので、今回は動物舎を前に持ってきております。内容的には変えておりません。

それから、5ページ目をごらんいただきたいと思います。

これは、キーワードで生物多様性とはということを入れていますが、後半に、なぜ生物多様性に取り組む必要があるのかというところを整理させていただいて、解説を補足させていただきました。そして補強しております。

飛びまして、8ページ目をごらんいただきたいと思います。

8ページ目の中段に、(3)メッセージを発信するメディアという部分がございます。前回までは、ここは「郷土愛」といった漠然とした情緒的な言葉が多く書かれていたのですが、今回は、「親子の愛」なり、「地元の自然環境を思う気持ち」というふうに、具体的かつ客観的な書きぶりに整理をさせていただきました。そういった意味では、言っている内容はほとんど変わっておりません。文言の整理というご理解でいいと思います。

それから、次は9ページ目です。

ここは、見た瞬間におわかりだと思いますが、基本理念を一目でわかるように大きくしました。私も最近老眼になってきたものですから、字を大きくしないとなかなか見づらい状況になってきているので、ちょっと大き目にして、目立つようにしました。

それから、10ページ目以降ですが、これは三つの柱のところですがけれども、柱ごとに特徴的な行動が目につくようにしました。例えば、10ページの「わたしの動物園」という視点からの行動という三つの柱を立てて、この中でも動物サポーター(アニマルファミリー)制度の導入などというように、見やすくというか、目につく行動のところをピックアップしました。そういった意味では、アニマルファミリー、野生動物復元プロジェクト、それから円山動物園構想など、象徴的な取り組みを見出し風に整理させていただきまして、具体的な行動がイメージできるようにしたつもりでございます。

それから、10ページのアニマルファミリーですが、これは前回の議論の中にもありましたズーフファミリーとかアニマルファミリーという言葉が入り乱れていたところがございますので、今回はアニマルファミリーで統一しております。今後は、これで整理させていただきたいと思っています。

それから、11ページ目の下の方ですが、円山のまちづくりをリードする行動の中のエリアの中核となる円山動物公園構想に向かって。ここについては、生物多様性の観点から、

植物も考慮して動植物園にしてはどうかという提案が笠委員から出されてございます。これは、後ほどご議論いただければと思います。そういった意味では、円山動物園を円山動植物公園にしてはという趣旨だと思います。

それから、次は12ページをごらんください。

12ページ下の方ですが、囲みがございます。基本構想の取組期間というところですが。ここには、前は抜けていたのですが、囲みの中の本文の2行目の後半、「平成19年度は基本計画（アクションプラン）を策定し」として、19年度に何をやるかということをやっと書き加えました。そうしないと明確にならないかなと思ひまして、入れております。

それから、13ページ目をごらんいただきたいと思ひます。

これは、前はソフト事業の部分ということで、好循環のサイクルの絵を直線的な絵にしてあったのですが、今回は、スパイラルというか、循環しているよというところを出すために円形に変えさせていただきました。かつ、円山らしさを出す独自性と、体験型の差別化ポイントを右の方に吹き出して入れております。これで、少しわかりやすくなったかなと思ひております。

次は、また飛びまして、16ページ目でございます。

これは、ハード整備の部分ですが、ここではさっき申し上げましたように、19年に基本計画、アクションプログラムを策定しますよと書き加えたこともあって、それから、上から3行目に「平成19年度に基本計画を策定し」という言葉をはっきり書き入れました。

そして、17ページですが、集中取り組み期間における主な取り組みの最初の丸でございます。これも、新たにつけ加えました。これは、19年に何をやるかということをしっかり中間報告の中に書き込んでおかなければ、19年のところが不明瞭になるので、加えております。

ここを読ませていただきますが、「基本構想の理念を踏まえ、平成19年度に老朽化施設の改築を含んだ中長期の施設整備計画となる基本計画を策定します。また、19年度については基本構想を実現する先行取組期間として、北海道（北方圏）ゾーンの一部と子ども動物園におけるふれあい重視型の新改築に着手します」ということで、19年に何をやるかというところをちょっと加えておきました。

それから次に、ずっと飛びまして、23ページをごらんいただきたいと思ひます。

23ページは、上から二つ目の丸でございます。「動物展示や体験イベントの実施にあたって」云々と書かれているところですが、これは、今回、アメリカに調査に行った私どもの飼育員の中から提案があったのですが、動物を通じて何かのメッセージを伝える上で、きちんと伝わっているかどうかを評価した方がいいのではないかと、そして、評価して改善につなげるサイクルをつくっておかなければ、これからの動物園はちょっとまずいのではないのでしょうか、評価の視点をしっかり入れましょうという意見がありまして、それはいいことだと思ひて採用したわけです。これは、アメリカでは動物愛護運動が盛んですから、

ここで各動物園が独自に評価方法をつくりまして、実施して、市民なり国民にしっかり見せているというところがあって、日本の国内でも円山動物園からこういった取り組みをしっかりと発信していったらどうかと思っております。

例えば、ホッキョクグマのイベントを見たときに、お客様にアンケートをいただくかどうかは、その方法についてはこれからですが、アンケートを行って、その感想がかわいいだけではちょっとだめです。次は、例えば地球温暖化の防止のためにこんなことから始めようと思ってもらえるようなアンケートのとり方の方法で、これから我々も取り組まなければならないと思っています。

そんなこともあって、園としても、これからは評価ということをテーマの一つに入れてやっていきたいと思っています。これは、委員会の中ではご議論いただいておりますが、私どもとしては必要だろうということで、申しわけないのですが、独断で盛り込んだところではあります。

以上が、今回の中間報告で、前回、第5回目から主に大きく変わったところがございます。

私の説明は以上です。

原田委員長 ありがとうございます。

ただいま、先回のリスタート委員会に既に基本構想案が提出されておりましたが、それに対して、いろいろと変更した部分についてご説明をいただきました。

順を追ってというよりも、もう委員の皆さんはごらんになっていると思いますので、この点についてはどうだというご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

基本構想案(中間報告)という名称は、こういう形でおさめることになるのでしょうか。それとも変わるのですか。

金澤園長 今の時点は、これでいこうと考えています。最終的には、もう少し……。

原田委員長 中間報告としては、こういう名称でいくということでございますね。

意見がなければこのまま行くということでございます。

小宮委員、いかがでしょうか。

小宮委員 基本構想をつくるときに、余り理想に走り過ぎて、基本計画のときにほとんどそのとおり行かないということがよくあります。17ページで、基本計画につながるように北海道ゾーンと子ども動物園という形で頭出しするような話があることが、次の計画が本当に進むために必要なのか。このことは、これから計画がうまくいくということに対して重要だと思えます。

これは計画の中で考えることですが、今、旭山動物園も北海道ゾーンをこれからつくると言っていますので、必ず比較されます。その辺は、一生懸命取り組まなければならないと思えますし、こちらにしかないような、同じものがないように、例えば今は鷹匠の資格を持っている人が、野生復帰につながるようなことをやっているということが非常に大事だと思えます。

それから、こういう委員会ができた理由は旭山にあるとすると、旭山は行動展示とされているところが非常に魅力的なのですが、全体からするとほんの一部です。その魅力でお客さんみんな来ているということであれば、前に僕は、ここでモモンガを飛ばしているのがすばらしいと言いましたけれども、そういうここにしかないような展示があるということが重要だと思います。

それから、世の中にはいいアイデアがたくさんあって、例えばコンサルにこういうものをお願いすると、世界じゅうのいいものを集めてくるのです。僕がよく言うのは、特にアメリカの設計図を持ってきて、これでどうですかということがありますが、アメリカを持ってきて日本でやると、狭いので、必ずミニチュアになってしまうのです。そういう意味では、何かまねをしたときに、まねをするなら、2倍か3倍の規模でまねすると、まねをしたように見えないのです。どうしても、寒いところだと、僕が見てもいろいろなところが狭く見えるのです。ここを売り出そうというところに思い切って場所もお金も投じて魅力的なものをつくった方がいいのではないかという気がしています。

そういう意味では、16ページの動物が快適に過ごしやすいところからというのは、旭山のことを考えると、本当に快適かどうかわからないのですが、少なくとも人間の方が快適そうに見えるのです。だから、旭山メソッドと言っているのも、こういう形でまず動物をどう動かすかを考えていくという意味で、この流れでできればよろしいのではないかと思います。

原田委員長 ありがとうございます。

今、かなり重要なご意見をいただきました。

最初に言われた、17ページの最初とのところで、北海道ゾーンについて、やるのなら力を入れてやらなければならないということです。それから、子ども動物園における触れ合い重視型の新改築ということをやったままでありますので、こういうようない方を具体的にここで先行取り組み期間と言ってしまうといいかどうか。もう少し検討して、マスタープラン等でそれを計画して進める方がいいのではないかと私には聞こえています。最初にずばって言ってしまうと、やらなければいけないということになります。この辺は微妙なところで、いずれやらなければいけない課題ということはわかるのですけれども、先行取り組み期間における主な取り組みとしてここまで言うかどうかということについていかがでしょうか。何かご意見はございますか。

確かに、これは18年内に中間報告をし、19年度から実施に移すということがどうしても必要なわけですが、何もしないでマスタープランだけというわけにはいなくて、ここに目出しのプロジェクトとして二つ大きく最初に書いているわけですが、こういうことでよろしいかというご意見のように私には聞こえました。

いかがでしょうか。

金澤園長 事務局の方から余りお話しするのは何ですが、ここの部分は、リスタート委員会が始まったときから、北海道ゾーン、それから触れ合いなり体験が絶対大事だよねと

ということが議論されております。そんなところから、私ども整理して書く方としては、これはやらなければならないよねという追い詰められた気持ちからしっかり書いてあるのです。そういう意味では、将来構想ですから、皆さんにするとぼかした感じの書き方だなどきっと思われているので、少しでも前に進める姿というか、少しでも具体的に近いところというか、できそうなところだけは、ひしひしと感じるところは書きたいなと思っていました。これは、来年度の予算との関係になりますが、着手しますと言っても、お金がつかなければ着手できないので、そこら辺は、ちょっと難しいところではありますが、頑張っていこうと思っています。

小宮委員 実現させるには、一つに絞った方がいいのではないですか。

山本委員 それは、費用面の問題の心配ではなくて、そもそも時間がかかるということですか。

小宮委員 それもそうですし、知恵を集中するという園からのアイデアも出さなければいけないし、そういうことが分散します。僕らのところでも、もし1年に二つやるとすると、資金的にも分散して、中途半端なものができるということがよくあります。

山本委員 ただ、このリスタート委員会というか、変革の契機になったところ、1ページ、2ページあたりの事情を勘案すると、余りいろいろと含み置きしたようなことばかりでは、なかなか市民の側も納得しないというところがあるかもしれません。

それから、先行取り組み期間で100%にする必要はそんなになくて、要は先行取り組み期間なので、集中取り組み期間に移行するための助走期間ととらえて、そこで着手をしてつなげていくという意味にとれば、別にここでうたっても何ら問題はないのかなと思います。私は、やはり企業の立場から物を言ってしまうので、専門的にそれができるかどうかということとは別に、やはり、ある種の目標設定ははっきりした方がわかりやすいのかなという印象があるのです。別にここで100点をとる必要は全然なくて、やっていくということが大事なかなと思っています。

私が聞くのも変ですけれども、服部委員はいかがですか。

服部委員 いずれにしても、目指すところは、究極はそこに落ちつくのです。それであれば、それはやはり目標として掲げていくべきだろうと思うし、その辺はぼやかしてはいけないと思います。計画をいつ実施していくかということも計画の中には出てくるだろうと思いますが、この辺の明確な目的はしっかりと押さえていないと、計画が非常に不安な状態になってしまいます。やはり、お客様が求めていることをやっていくという考え方で、こういった文言をきちんと押さえておくということによろしいのではないかと思います。あとは、手法の問題になるうかと思えます。

小宮委員 今まで円山動物園でつくった一つ一つの施設は、基本構想があって、基本計画があって、実施計画があって、1個構築するのに4年ぐらいかかるのですか。

金澤園長 物によりますが、ことしオープンしたさる山のレストハウスは、計画立てたのは1年です。

小宮委員 これは、新改築に着手するということですが、あるものは基本計画に着手だろうし、あるものは実施計画を書いてしまうのか、これは全体の基本計画のときにどう並べるかという話だと思うのです。これは、考える暇なくすぐに建ってしまうような印象の文章になってしまっているのです、それを心配したのです。

金澤園長 園内では、このリスタート委員会で検討は検討としてやっていますが、職員は職員でも別途検討してしまっていて、例えば、見直すところは、こういう見直しができるかなというのは、もう既に着手して、原案というか、たたき台に近いものはみんなそろってきています。それが実施できるかどうかは別にしても、見せ方を変えていったら少しはよくなるねというものは温めている最中なので、全くゼロからではないということもあります。しかも、着手といっても、着手の範囲には工、事に着手するものもあれば、計画づくりに着手するのもあって、ちょっと幅が広いのです。市民にしっかり見える形というのは、きつと工事に着手しなければだめなのです。そうすると、年度末かけてでも着手できればご理解はいただけるかなという視点で入れてあります。必ずしも、4月1日からすぐこの工事をやれるということではなくて、ちょっと幅はあると思います。

服部委員 でも、ここの部分だけでとらえていくとなると、ハードの部分、いわゆる建物を建てて触れ合いを強化していくというような物事ではなくて、もっとソフトな部分でもやることはたくさんあるわけです。そういった幅広い見方での触れ合いというのは、どっちにしても必要です。今、現実に動いている部分もあるわけですから、そういったものをさらに付加していきますという考え方ですね。ここは新改築に着手するという言葉になっているからまずいのかなと思います。

高木委員 例年だと、ある程度の予算規模があるのですか。

金澤園長 実は、予算規模というのはないのです。円山は何億円が範囲ですというのはないのです。札幌市全体の中で、全市を集めた中で、この事業は集中的にやらなければならないとなったら、そこに集中させるという仕掛けです。ですから、円山に何億円というつき方ではないのです。札幌市全体の税金の収入とか、国の補助金とか、交付金とか、そういう入り方をおよそ立てて、それにあわせてというやり方です。その中で、プライオリティーがついてきます。

服部委員 ここのところで小宮委員がおっしゃっていることは、先行取り組み期間として新改築に着手しますということをお上段に振りかざしてしまっているのです、非常に危険性が高いよということだと思います。先行取り組み期間として新改築に着手するといったら、本当に予算があるのかという物事になってしまうのです。先行取り組み期間よりというような言葉を置きかえていったときには、非常にやわらかくとらえていくことができるのかなと思ったのです。

いずれにしても、触れ合い重視型というのは大変大事なことです。先ほどのこども調査隊の報告書にも、そういったことがたくさん出ているわけです。この辺は、ハード、ソフトともに、そういったものをしていかなければいけないということで、集中取り組み期間

において、これを具現化していくというのは大変大事なことだろうと思います。

ただ、先行取り組み期間の中で新改築に着手するというのは無理があるのかなと思います。ですから、先行取り組み期間より新改築に着手していきますというふうにしていけば、先行取り組み期間の中で終わってしまうものもあるでしょうし、その後の計画の中でも足りないところは描いていかなければいけないということで、言葉をやわらかくするとすれば……。

原田委員長 いろいろご心配をいただいているようです。

新改築という言葉が、現状施設を新しく改築することにも手をつけますよということなので、そこまで言い切ってしまうていいですかということですね。だから、その辺のニュアンス、言い回しをもうちょっとやわらかくしてはどうかということですが、いかがでしょうか。

金澤園長 後で考えさせていただきます。文章の部分は、ほかのものはみんなぼけているのに、ここだけすぱっと言い切ってしまったのです。

原田委員長 これは、先行取り組み期間と言っているもので、これだけは着手しますよと言っておいて安心をしていただこうというお気持ちもよくわかりますが、少し心配ですね、予算はあるのでしょうかということでございます。

服部委員 小宮委員のおっしゃることは本当に心配です。

原田委員長 それでは、この表現については、もう一度検討いただくということにしておきます。

ほかに意見はございますか。

金澤園長 できれば、11ページの動物公園のところをご検討いただきたいのです。

服部委員 これについて、私の方から意見を述べさせていただきたいと思います。

動物公園という位置づけを描いていたということは、リスタート委員会の中の一つの考え方として、原生林もあります、神宮の森もあります、そして動物園の森もありますということで、そこに動物が共通して存在しているので、そういったところの動物も取り込む形で動物公園にしようではないかというふうに位置づけたと思います。それに加えて、動物公園ということにして、植物をさらに付加していくということになってくると、大変無理があるのではないかと思います。無理があるということは、植物自体をもう少しピックアップして北方圏の植物で押さえていくのかとか、もっと希少植物を描いていくのかとか、いろいろな問題が出てきます。そんなことをしてしまうと、まとまりがつかなくなってしまいます。

円山動物公園という位置づけは、動物公園にするというのではなくて、一つの考え方というか、原生林の動物にも取り組みますよ、あるいは極端に言えば、モモンガを飛ばしたときに、円山に飛んでいってしまったよということになったときに、それでもいいのではないかと、一体としての考え方を描いていく、そういうことで描かれたように思っています。そういう意味で、円山動物公園というのは、考え方としては大変大事なことであって、そ

これは押さえておかなければいけません。その考え方は、植物園まで含めて考えてしまうと無理があるのではないかと思います。

原田委員長 ありがとうございます。

動植物公園は少し無理がありそうだというご意見でございますが、ほかにご意見はございませんか。

小宮委員 植物園部分の土地を、どこかの隣接する場所を足すことが保証されているならいいと思うのです。もし、そういう構想を立ててしまっただけで、この中でまたやれということになると、確かに服部委員の言われたとおりのことになるのではないかと思います。

原田委員長 新しく植物園をつくるなり、既存の植物園を付加するなりであれば、動植物公園というのにも意味があるというご意見です。

ほかにご意見はございますか。

服部委員 もう一つつけ足して言いますと、小宮委員がおっしゃった危惧する問題ですが、いわゆる焦点がぼけてしまいます。動物園でありながら植物園、両方を描かなければならなくなってしまうときに、ソフト的な部分、予算的な部分、スペース的な部分、それらを含めて少々無理があるのではないかと思います。

金澤園長 先日、実は動植物公園について笠委員と話をしてきましたので、その内容を説明させていただきます。

事務局 笠委員は、みずからの研究テーマが植物だということがあって、流れからいうと、動物と植物と両方も含まれた生物ということで、文章もおおむね入っているので植物かなと思ったということなのです。植物園という形態になることは非常に厳しくて、このリスタート委員会で話されることは、円山動物園という動物園から始まっていることでもあるので、余り強く植物園というのもどうなのかと。そして、仮に名称をそういう方向で変えるような時期が来たときに、また改めて市民みんなで話し合えばいいのではないかと。構想としてのふくらみの話なので、もし皆さんが余り植物ということに強い執着がないようであれば、それはそれでもいいですというお話でした。

原田委員長 そうですか。

金澤園長 笠委員は、動物園にこだわることなく、それこそ円山というエリアの中で広くとらえたときに、原始林の円山もあれば、円山公園もあって、そこで植物もやっているから動植物公園というイメージを出してもいいのではないかとということです。昔々からの円山公園なり円山そのものをよく知っている方なものですから、動物だけでいくと、ちょっとおれの立場からはという感じなのです。

事務局 ただ、植物園のような形で植物を展示する場合には、植え方というのが一方ではあって、それが今の円山公園とか円山動物園の中の植物のあり方には余り合わないということも、ご本人はおっしゃっていました。

小宮委員 ただ、ここに北海道エリアというか北方圏動物のコーナーをつくるのを目玉

にしようとしていると、そこは植物も合わせなければいけないということになります。考えとしては、そういうところから入るのではないですか。

金澤園長 植樹というのは、どうしてもやっていかなければならない作業なので、それはやりますが、生物の多様性を考えた植物のことができるかといったら、ちょっと難しいところにあるのかなと思います。ただ、北方圏とか北海道に合う木を植えてくるということは不可能ではないですね。そこまで大きくとらえたときに、植物体系をどうやったらいいかというのは、笠委員にアドバイスしていただきながら、どういう植物がいいかということを議論させていただく形になると思います。

原田委員長 私は、この動物園は、そもそもすぐ隣にある円山原生林に生えている植物が過去に生えていたのではないかと考えているのです。そういう意味では、別に遠くから持ってくるというよりも、原生林、もともと森であったところに生えていたであろう円山に植生しているような植物群を少しずつ植えていって、将来的には森と言えるような動物園に復元していければいいなと思っているのです。

ただ、植物を植えていくには、この委員会でもお話が出たと思いますけれども、費用もかかるのでという言葉がどうしてもひっかかっています。それは、先ほどからお話が出ておりますように、生き物が生きていくためにはこういう植物がどうしても必要なのだというような説得ですね。何かメディアをつくって、そういうことを言っていただくと同時に寄附をしていただくような働きかけをしながら、植生を豊かにしていくということが考えられると思います。

だから、植物は急に突然というわけにはなかなかいきませんし、植物を植えてそこに生物が宿っていくようにするにもかなりの時間がかかっていくと思います。ですから、そういう森にかなり復元されてきたなという時点で、動植物園というふうに呼んだ方がいいのか、あるいは自然公園というふうに呼んだ方がいいのか、また改めてご検討いただければいいのではないかと私自身は思っています。

今、いろいろとご意見出ましたけれども、最初から動植物公園というふうに持っていくのは、そういう検討もまだ手薄でございますし、今、この中間報告の段階でそういう構想に切りかえていくというのはかなり無理があるのではないかと私は思います。どうでしょうか。

小宮委員 札幌には、北大の国立の有名な植物園があって、またここでいうときに、どうしても役割分担や比較をされます。東京でも、東大の小石川の植物園というのは、学問的にはそっちで、都立の植物園はどうしても公園的な要素になってしまっています。植物園という名前の看板を掲げると、ちょっと覚悟しなければなりませんので、別なエネルギーが要るのではないかなという気がします。

大谷委員 語感としては、公園と聞くと、それだけで緑がたくさんあるようなイメージを一般人は持てるので、最初の衣がえの表現としては動物公園というので十分インパクトはあると思います。

原田委員長 ありがとうございます。
ほかにどうでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

原田委員長 それでは、笠委員の動植物公園にしてはということ、考えるのであればもう少し先に考えるということで、今回、中間報告としては円山動物公園構想ということでご了承いただいたということにしたいと思います。

ほかに何かございますでしょうか。

特に、前回検討する時間がなかった20ページあたり、持続可能な経営の方向性、マネジメントというページからは特に強い意見がなかったと思いますが、このあたりについてはいかがでしょうか。

私は、ここで一つだけ確認しておいた方がいいかなと思っているのは、21ページの収支のことです。平成17年の収入、それから平成18年の収入があって、平成23年にはこれぐらいに均衡するという前提で、入園者数が100万人にふえて、ランニングコストを30%減らすことで均衡しますという計算になっているわけです。この数値目標を言ってしまうと、動かないなという感じがするのです。業績評価はここにかなり集中して、こう言ったのではないかということが最後までついて回るとと思いますが、この辺はいかがでしょうか。

服部委員 単年度黒字経営を目指すというのは、ある意味において、園の経営としては大変大事なことだと思います。それをなしていくためには、100万人を目指さなければならぬのですが、100万人を目指したところで、入園料だけでは黒字になるわけではありません。ただ、入場者数をふやさないことには、サポーターも追従しないだろうと思います。また、サポーターがふえていかないことには、入場者数もふえていかないだろうと思います。今回は、アニマルサポーター、アニマルファミリーという言葉が出ていましたけれども、この辺が一体となって動いて行って、初めて100万人という目標がクリアされるのだろうと思います。

18年度の実績で63万人ということで、前年度比から30%アップしています。100万人というと、23年ですから、この数字は経営的な見地から見ると非常に低い数字である。うがった考え方になるのかもしれませんが、これを達成しなければ今回のリスタートの構想を打ち上げること自体が非常に脆弱というか、希薄ということになると思うのです。そういう意味では、100万人というのは当面の目標として掲げておられるのだろうと思いますが、23年度まで100万人というのは、この構想自体も弱いものだろうというふうに評価せざるを得なくなってきます。

もう一つは、入園料等の収入は倍増を目指すということになっておりますが、この入園料の収入等では損益分岐点をクリアすることは当然無理です。そのためにもランニングコストを下げなければいけないということで、30%の削減を図るということです。ただし、これについては人件費を除くということをお確かにおかないと、人件費も削除してラン

ニングも含めてすべて削減していきますということになると、30%というのは相当きつものになっていくでしょう。ただ、ランニングコスト、一般管理費については、人件費を除いた物事についてはリスタートさせる、いわゆる再生させるときというのは、おおむねこのぐらいの大なたを振るわなければ再生は無理だろうと思います。

ましてや、指定管理者制度に持っていこうとするかどうかという言葉まで入っているわけです。本来は、札幌市自体が今のまま存続していく中で描いていくとなると、この程度はクリアしないと、存続すらもおぼつかなくなってくるのではないかと思います。ですから、この辺は、ある意味において弱い部分もあれば、しっかり押さえているなという部分もあれば、本当にできるのかなという部分もあるなと思います。どんなことがあっても損益分岐点をクリアするという決意を持った中でこの数値目標を定めなければいけないだろうというのが私の考え方であり意見です。

原田委員長 この入園料の基本になっているのは、現在が1億6,000万円で、その倍増を目指しているという非常に単純な掛ける2ということですね。つまり、入場料を倍増するということですが、よく見てみると、入場料等の収入を倍増するというふうに書いてあるのです。だから、この「等」の中にアニマルファミリー等からの寄附金等、あるいはファミリー料金もこの中に入れていくというふうに考えてもよろしいわけですね。

金澤園長 はい。そのほかに、例えば企業からの寄附とか、広告というものが出来れば、それをみんな含めていくということです。確かに支出を抑える部分はありますが、別な角度での収入も上げていきたいと思っています。

原田委員長 ちょっとお聞きしたいのは、計算上、これが3.3億円という目標値になっておりますが、これ以上は無理なのですか。

服部委員 入園料等ということを考えていったときに、この規模では非常に弱いのです。そういう意味では、根拠のない数字がここに上げられていると言わざるを得ないと思うのです。この辺は、裏づけをきちんと計画の中に描いていくと。ですから、目標値として、この中に3億3,000万円という収入合計を入れておくのがいいのかどうかということだと思います。むしろ、2005年度に対し倍増を目指すというふうに描いていくと。これでは損益分岐をクリアし得ないのです。最終的には、企業会計をするとすると、人件費まで含めた中で損益分岐点をとらえていかなければならないわけですが、現状では、札幌市ということで給与ベースが決まっていますので、人員を削るなどということをごにうたうなんていうことをここにうたうわけにはいきません。言ってみれば、人件費を除くランニングコストの30%の削減を目指すという目標値をあえて入れない方がいいのかもしれない。

高木委員 私は、あえてこのぐらいの数字の目標が必要なのだと思います。その後のコスト削減の仕組みのところ、例えば維持管理等委託業務の経費を軽減とか、競争入札の徹底とか、指定管理者についてのことがいろいろ書いてあります。コスト削減の方向が、業務委託の削減と、指定管理者制度の中の非常に安定価の中の委託ということが実際に起

こってありまして、実際にそこに民間が参入できないだろうということがあるのです。それにしても、民活みたいなものが必要になると思うので、コスト削減の仕組みを検討するものを入れてほしいのです。指定管理者制度で業務委託の方法自体や移行の検討をするということが必要だと思っているのです。条例で縛られていて、市のこの制度と道がしようとしているものは違うと思いますが、何かイベントをするときもお金のとり方とか、イベントで出た利益を管理費に入れられないとか、私たちの常識の中と行政の組織の面の常識と違うものがすごくありまして、それがかみ合っていないところがあるように感じています。業務委託へ移行していくための検討をするみたいな、調査検討をするみたいな項目がないと、本当に大なたを振るときに振るえないのではないかと、ここ数カ月の実感として思っているのです。

金澤園長 今言われたことは、このコスト削減のところに検討するという言葉を入れるということでしょうか。例えば、具体的な中身は別として、維持管理業務のやり方は、小さいものを一つ一つ出すより、例えば大きいものを一つにすると諸経費が落ちるよ、そこをまとめてやるような仕掛けを考えるという趣旨をここに入れてしまうということですか。

高木委員 指定管理者の業務委託をする仕様書をどうつくるかを検討するという事です。

金澤園長 それを言われても、ちょっと大変かもしれません。

高木委員 これを実際に実行に移していくと、何らかの形で大なたを振るわなければならないのですが、現行の仕組みや制度の中ではうまくできない部分があると思うのです。

金澤園長 システム上、できない部分はあります。

服部委員 その問題は、一番最後の末尾に、運営主体についても指定管理者制度の活用等について検討を行いますとあります。いわゆる検討を行うということですが、これはやるというための検討なのか、その辺は定かではないですけれども、指定管理者制度の活用ということについては検討を行っていきましようというふうにうたっていますから、その辺で言葉の意味合いとしてどうなのですか。それでも問題はありますか。この指定管理者制度の活用ということでは、どの程度のメリットにつながってくるかということですか。

高木委員 言葉の上ではそうなると思いますが、ここは構想を練る段階ですから、そこまで突っ込む必要はないと思っている上での発言なのですけれども、それが現実に移るときに非常に厳しい側面があると思いますので、移行の方法を考えていくということが必要な気がするのです。行政だけではなくて、民間も入りながら、どういうふうに移行したらいいのだろうか、その問題点は何かという発想の検討が必要だというふうに非常に思っているのです。ただ、それは答申に入るのか、この次の段階で具体的に考えるのかというプロセスはちょっとよくわかりません。

服部委員 構想というのは考え方ですから、言葉の意味合いからいきますと、一つの考え方を講じたわけだと思います。そんな意味でも、指定管理者制度を入れるのか入れないのか、入れることによる功罪、入れなかったときの功罪ということは、たしか前の委

員会でも話が出たと思います。そんな中で、入れてみようという……。

高木委員 検討を行いますというのが入っているので、これが言葉の上で入っただけでも非常にすばらしいと思っていますが、それをもう一步踏み込んでいただけたらうれしいなと思っています。

金澤園長 私の腹の中では、この検討するというのは、検討の中でも丸かバツか三角かという結論がすばっと出る部分と出ない部分があって、その中で、デメリットが大きいならやめるし、メリットがあるのであれば進めるという考え方をここではしっかり出せばいいかなと思っています。

ただ、第1回目のときにお話しさせていただきましたが、行政監査があって、実は監査報告書の中に書き込まれています。その中では、指定管理者も含めて民間に移行できるように検討しなさいという条件がついています。そんなこともあって、本来、リスタート委員会で結論出さなければならないのかもしれませんが、いきなり結論は出せないのです。今の時点で結論を出したら、直営しかないのです。民間に委託しても、受け皿がないのです。それで、もう少し収支を改善して、こういうふうになったら魅力ある仕事だなと民間に思わせないことには、委託にするにしても、指定管理者にするにしても、何か別な形態を持っていくにしても、なかなか出ていきません。しかも、今も議論されていましてように、人件費も含めてトータルでというところがまだ明らかに目に見えるような仕掛けになっていないので、最初にもありましたが、特別会計だっていいのではないのというところがあるように、そういった方法がいろいろあると思います。そういうものをここでしっかり検討して、最終的に、指定管理者なのか、別な制度なのかは考えていいのではないかという趣旨で、今回、事務局では整理しています。

ですから、行政監査の中で指摘されている事項をぼろっと落とすわけにはいかなかったものですから、これは入れてあります。それが本音の部分です。

原田委員長 23ページに、「健全な経営体質に近づけた時点で、運営主体についても、指定管理者制度の活用等について検討を行います」という記述があります。「健全な経営体質に近づけた時点」というのは、ここで言うと目標年度平成23年度の決算を目指しているということです。

服部委員 黒字決算を目指しているということですね。

原田委員長 ですから、それまで毎年、経営戦略については延々といろいろ検討を進めるといふふうになっているわけです。

高木委員 十分です。

山本委員 23ページの一番最後の二つの丸の位置づけの確認だけさせてください。

「リスタート委員会を発展改組し経常的な外部委員会を組織」と書いてあって、次に「動物園の経営改革を集中的に行い、健全な経営体質に近づけた時点で」云々と書いてあるのですけれども、この場合の経常的な外部委員会の位置づけは、経営改革にもタッチするのでしょうか、しないのでしょうか。

なぜかという、もしするのであるとすれば、その中で今のような議論もなされるというふうに読めるからです。

服部委員 そうですね。いいところを突きましたね。

山本委員 ありがとうございます。ここは意外と大事なのです。

金澤園長 後段の見解は、今、リスタート委員会で皆さんに基本構想をつくるころまでをお願いしております。それで、来年度以降については、リスタート委員会からの提言の形になっていますが、外部委員会をしっかりとって、動物園経営全体をチェックできるようにしていこうと考えています。外部委員会の場合も、市民190万人全部に見せて議論されてもちょっと大きいので、市民公募の代表選手ということで委員を入れて、それで議論をしていただこうかなという考え方です。ですから、そこでは、経営もさることながら、将来構想の基本構想のチェックというか、進捗状況もチェックしていくという考え方でございます。

高木委員 見る人が見たら、一番後ろにあるところにかかなりの期待感を持つと思うのです。私は、これが結構だと思っています。

金澤園長 一番最後は結構重要なのですが、動物園の運営体制を言っているのが、それが表に一番最初に行くわけにいかないのです。並べると、どうしても一番最後に内部管理の部分が出てくるものですから、それが一番最後にならざるを得ないと思っております。

原田委員長 そういうことでよろしいでしょうか。

それから、21ページの数値ですね。3.3億円とかという数値を入れておいていいかどうかというご意見も先ほど出されましたが、これについてはよろしいですか。

小宮委員 これは、ここのところは入れざるを得ないのしょうけれども、100万人を目指すのでしょうか。お客さんがふえて、魅力的なことをやると、絶対にランニングコストがかかるのです。だから、こういう話は金をかけないと魅力的にならないし、お客さんがふえないということがあります。それがわかって書かれているのならいいです。

服部委員 確かに、本当に反比例するような物事が全部挙がっているのです。そういう意味では、いわゆる倍増を目指していくわけですから、30%の人件費を除くランニングコストの削減を目指していきますと数値を入れてしまうと、どんなことがあっても達成しなければならないものになっていくわけです。そういう意味で、今、小宮委員の方でおっしゃったように、100万人が150万人、200万人とふえていけば、ランニングコストの削減というのは到底難しいです。

高木委員 それは、現実的には起こっています。このとおりなのです。3年間、5年間で、過去2年間のコストの15から20%を削減されて、なおかつ入場者をふやすという方針があって、なおかつイベントなどの費用がとれないという状態の中で委託業務が起ってしまうということがあるのです。それに構想計画があったのかどうか私はわかりませんが、そういうところをちょっと心配しているのです。

服部委員 だから、あくまでも30%の人件費を除くと入れておかなければ大変なこと

となります。もっとも動物を強化していく、エンリッチメントを強化しましょうといったら、人件費がもっともってかかってくるのは間違いないと思うのです。そういう意味では、人件費を除いた上でランニングコスト30%の削減を目指していきますという枠組みで描いておけば、例えば30%目標にしているのだな、27%でもいいのだな、努力した結果27%でおさまった、それで収支が上がってきた、それもありだろうと思います。ただ、ここで3億3,000万円を目標にしますというふうにすると、この数字がひとり歩きしてしまう可能性があると思うのです。そういう意味では、目標数値は入れない方が構想としてはいいのではないかと思います。これを計画段階にしたときに、実際、数字の裏づけをつくっていかねばなりませんから、その上で出てくることだろうと思います。

私としては、そのように考えますし、そういう意味で、目標値は命とりになるだろうというふうに申し上げておきます。

金澤園長 言われていることは、簡単に言うと、括弧書きのところを消してしまってはどうかということですね。

服部委員 そうです。それだけのことです。

原委員 それともう一つ、今の人件費を除くというのは私も全く同じ思いですし、それがなければきっとこれはならないだろうと思います。

(2)のコスト削減のための取り組みの中で、人件費のことを書かれているところがありますね。夜間イベント等による人員配置の見直しというのも、そういうことであれば外した方がいいのかなという思いがあります。

服部委員 むしろ、これを効率的な人の運用、人の活用ということをやっていないと、ただ、のほほんとしていたって、それは経費の削減になりません。それこそ、私は、人件費を含めて削減を目指せと言いたいところです。ただ、こういう意味で人件費の節約というのは、構想を入れておかないと野放図に広がってしまって、幾ら黒字にしようと思ってもできなくなってしまいます。押さえは必要だろうと思います。

原田委員長 いかがでしょうか。この括弧書きのところをとってしまう。

山本委員 とっても、計算したらわかってしまいます。

金澤園長 わかるのだけれども、数字が書いていないというだけです。

服部委員 括弧書きは括弧書きなのですが、目指していくという一つの決意、考え方をここに示しているのです。3億3,000万円どうしても収入を上げるよ、本当にこんなのでいいのかと。

原田委員長 これは、すごくわかりやすく説得力がありますけれども、できなかったらどうするのか、それでこれはいいのかなと思ったのです。例えば、30%の削減というのを本当にこれを書いていいのかと思うのです。

これは、明記してあるということで、必ず後々で指摘されところになると思います。ほかの部分は余り数値に関して書いていないのですが、ここだけはっきり書いてあるので、これは自信あるのだなというふうに思われる部分です。これは、書いたら消せないで、

本当に表記してよろしいかとあえてお聞きしているのです。

金澤園長 正直言って、30%というのは非常に厳しい目標値であることは事実です。でも、25年度と比較して30%落とすことは、100%不可能というわけではなくて、やはり、そういう努力をきちんとしていかなければ、先ほど服部委員言われたように、どこかで手を抜いてしまったら意味がないわけですから、そこを確保するためにもこれは必要なのかなと思って、私ども事務局としては30%という数字を具体的に入れたのです。ですから、これを達成するのかと言われたら、30%なのか27%かという数字になってくると思いますけれども、それに向けていくという意味での30%は必要だろうと思っています。

これは、すっぱりランニングコストのところが落ちるのだったらやりようがあるのですが、削減を目指しますだけではちょっと書きようがないと思って、こういう表現にしました。甘くして20%にしてもらえれば、気持ち的にはすごく楽です。

大谷委員 そもそも20%ではなくて、40%ではなくて、30%という数字に落ちついた根拠は何ですか。

金澤園長 簡単に言ってしまうと、収支バランスを考えたときに、そこまで落とさなければ単黒にはならないのです。逆の計算です。

山本委員 だから、平成23年度決算期で単年度黒字になるための数字ですね。逆算しているわけですね。

金澤園長 そうです。例えば、新しい施設ができてランニングコストがかかるようであれば、それは理由をしっかりとつけて、今やっているもの、既存のものはこうだよ、けれども、新しいものはこうだよとしっかりと説明できれば、市民の理解の仕方が変わるのではないかと私は思っています。

山本委員 今はパブリックコメント、あるいはパブリックインボルブメントの時代なのだから、情報は開示して共有して頑張ると。言ってしまうえば、民間のように責任を問われるわけではないではないですか。だから、書いて、プロセスも開示していくという方が、今の気風のような気がするのです。みんながすごく心配して言っているのはわかりますが、それだけ開かれた動物園を目指していくにもかかわらず、今からできなかったときのことを考えるのはどうなのでしょう。ここは価値判断ですが、その方が理解をしてもらえるのではないかと思ったりするのです。一つの意見です。

服部委員 私も、あくまでも当初の話したとおり、100万人を目指します、売上を倍増させます、30%削減をします、ただし人件費を除くということだけ入れておかないと大変なことから、人件費を除くランニングコスト30%削減しますと言い切っていると思います。あとは、これに向けてどういうふうに戦術を駆使していくか、経営戦術をどういうふうにやっていくかということがかかわってくる、それが計画だろうと思います。構想としては、これを描いておかないと、はなから赤字でずっと垂れ流していくよというわけにはいかないと思います。

だから、今回は、ある意味において動物園のあり方を問われているわけですから、市民が納得して税金を投入できるような動物園にしてほしいというのがまずあると思います。しかし、だからといって甘んじているわけにはいかない、動物園は動物園として収支を合わせていかなければいけない、その努力は怠らない、その目標というのはこういうことですよということによろしいと思います。

小宮委員 今、現行料金というのは、中学生以下はただですね。

金澤園長 そうです。

小宮委員 要するに、札幌市民でなくてもですね。

金澤園長 はい。

小宮委員 だから、場合によって、20%にしたいとしたら、その10%分、子どもをただにしているというのは、そのコストは税金に頼れるのだ ちょっと出しにくいけれども、そういうところが、動物園の教育施設としての赤字になり得るところなのかなと思います。もう少し細かく言えば、現行を守るといった場合に、ただの分の10%を引いてくださいということを書いておいた方が安全かもしれません。

たしか、旭山は子どもも有料ですね。違いましたか。

岡田委員 無料です。

小宮委員 そうですか。反対に、子どものお金をとってしまうと、本当に100%もらいにくくなるのです。

金澤園長 一方では、この中に増収のために料金を上げるということを書いています。入園者数の拡大に応じて金額の再検討を行うということも入れてありますから、将来の含みとしてはそういうこともあるわけです。

それから、20ページの方で、計算するとき、政策的な減免、例えば子どもたちの料金は大人の半額ですよという計算をすれば、試算ベースでは4,700万円くらいの収入というか、プラス・アルファがあるという趣旨です。ですから、そういうところは、こういうランニングコストの中なり収入なりの説明のときにきっちり出していけば、市民の理解は得られやすくなると思います。それこそ、今、山本委員言われたように、オープンにしまして、こういう議論で、こういう経過でやっているよというところが出ていけば、私は説明しやすくなるのかなと思っています。

服部委員 いずれにしても、前の委員会の方に、料金を値上げするよということは意見として出てきていたわけですし、その辺の枠組みの中で収入増に向かっていくためには、当然、いろいろな手だてをこれから行っていかなければならないと思うのですが、この構想にそれを入れていっていいのかと思うのです。

原田委員長 それでは、いろいろとご意見が出たようですので、そろそろ結論を出したいと思います。

いろいろ心配はあるが、目標値を出して頑張るのだということのように思います。

このとおりでいくということによろしいでしょうか。

金澤園長 このとおりというのは、括弧書きを外すということですか。

服部委員 括弧書きを外すということです。

金澤園長 どちらにするのですか。

服部委員 私は、括弧書きを外すという意見です。

原田委員長 外すということによろしいでしょうか。

岡田委員 括弧書きを外すということは、この下のグラフもとってしまうということですか。

金澤園長 このグラフは、考え方として入れることは不可能ではありません。これには具体的な収入とか支出に論点がなかったものがあるから、それを落としていけばいいだけのことです。

原田委員長 私が最初にお聞きしたのは、入園料と収入が倍増という倍増の仕方もあるのではないかとということです。例えば、倍増でなくても、2.何倍というふうになることだってあると思います。ですから、コスト30%の削減ということを最初から言うのもおかしいと思うのです。そのバランスがとれればいいということで、そのバランスを目指すということがこの構想で本当に言いたいことではないかと私は問いかけているわけです。そういう意味では、余り数値をそろそろ並べないで、括弧書きをとってしまった方がわかりやすく、下の例は、バランスのとりの一例というような表記の方が私は好ましいと考えています。

原委員 よろしいのではないのでしょうか。

山本委員 それで非常によくわかります。

原田委員長 というのは、今、動物園では1,000頭以上の動物を飼っているわけですが、年間の入場者がもう30%アップということになると、18年度実績で63.8万人、そのうちの約1割に満たない人たちが、この動物をみんな分けてもらおう、すなわちアニマルファミリーになりますよというふう考えたときに、1,000頭いて5万人となりますと、1頭当たり50人です。これは非常に乱暴な計算ですが、1人が5,000円を出したとすると、5,000円掛ける5万人ですから、間違っていなければ2億5,000万円です。アニマルファミリーになることによって、2億5,000万円の寄附を寄せたということになるのです。

そのかわり、これは一種の分譲のようなイメージなのですが、それぞれの動物の価値は全部違いますし、価格が違いますので、ライオンと鳥と同じではないかということになりますが、それはバランスを変えるということで、このライオンについては1,000人あるいは2,000人が分譲者数になるというふう考えていって、いずれにしても、トータル5万人の人が1人当たり5,000円を寄附したということになりますと、2億5,000万円が入場料とは別な収入になってくることになるのです。そういうふうになりますと、1億6,000万円プラス2億5,000万円、そうすると4億1,000万円ということになるわけです。ここでベースにしております2億7,000万円から引くと、

6,000万円の赤字を補てんすればいいわけです。そのコスト削減をすればいいというふうに一気に下がるわけです。

ただ、この意識が皆さん一気に芽生えるというわけではなくて、最初は非常に少ないファミリー数かもしれませんが、これを急上昇させていくようなプロモーションが必要になってくるのではないかと考えます。

そういうふうに考えていきますと、必ずしもコスト削減が30%どうしても見込まなければならぬということではなくるので、どういう状態になっても、30%と掲げたのだからランニングコストを下げろというような言い分はむしろ通らないわけで、バランスがとればいい、黒字になればいいということが求められている目標なわけですから、この数値に余り固執するような書き方にしておくのが絞まるなというふう考えたのです。

それでは、括弧書きをとって、一つの考え方としてこのグラフを残すと。文言はちょっと考えていただくことにして、落着くということにしたいと思います。

よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

原田委員長 ありがとうございます。

ほかにございますか。

服部委員 文言の枠組みで、一つ大事なところですけども、4ページの駐車場の問題です。

一番末尾に、公共交通機関の利用促進を図るか、または駐車台数の拡大を検討する必要がありますということですけども、これは、公共交通機関の利用促進を図る手だてをつくっていきましょうということと、駐車場の台数がどうしても必要ですという意見が出ていたと思うのです。そういった意味では、利用促進を図るとともに、駐車台数の拡大を検討する必要性がある。公共交通機関の利用促進を図らなければならないし、駐車所の台数の確保も必要であるという考え方で、どちらかにするのかということに余りにも大ききざみ過ぎてしまうのかなと思います。利用促進を図るか、駐車台数を拡大するか、どっちかを図る検討をしましょうということになってしまうので、これは両方検討しなければならぬと思っています。これが1点です。

もう1点は、便益施設の3ページのところです。

私もたばこを吸うのですけれども、たばこは基本的に禁煙なのか分煙なのか、ここで完全分煙を実施するということを言い切っているのかどうかということです。

ちなみに、上野動物園はどうなのでしょう。

小宮委員 分煙です。すごく少ないですが、ここで吸ってくださいということです。

服部委員 やはり、分煙する必要性があるのですか。禁煙はなかなかできないのですか。

小宮委員 いずれは禁煙に踏み込むような気がします。

服部委員 社会情勢としては、公共機関は禁煙の方向に向かっています。特に病院は完全に禁煙です。施設というか、敷地内禁煙というのがどんどんふえています。私も、そう

いう意味では居づらくなってきています。自分で自分の首を絞めているようなものですが、社会情勢の中では公共のゾーンはいずれ禁煙になるだろうという中では、円山動物園は完全分煙化、禁煙を検討すべきだろうということで、ここも検討した方がいいと思います。

以上の2点ですが、あえてもう一つ言うと、そこから3行上ですけれども、「手洗い場所の確保が必要である」の手洗い場所というのは、触れ合いをさせるためにはどうしても数多く必要です。そういったことをもっと親切に入れてあげた方がいいと思います。1個だけ手洗い場所をつくれればいいというふうにとられてしまったら、触れ合い動物園の意味合いがなくなってくる。そういう意味で、数多くの手洗い場所を設置するという方向でつくっておくべきではないかと思います。

この3カ所の文言が、入ると入らないでは天と地のごとく違ってきていますので、ご検討いただきたいと思います。

原田委員長 今の手洗いの記述は何ページでしたか。

服部委員 3ページの便益施設の上から3行目です。「手洗い場所の確保が必要である」とあります。ここで、手洗い場所をもう少し義務づけておいて、触れ合いという位置づけと連動させておいた方がいいと思います。

原田委員長 今の3点につきまして、まず手洗い場所を数多くという文言を入れることについてはいかがでしょうか。

それに越したことはないと思います。

これはよろしいですね。

(「異議なし」と発言する者あり)

原田委員長 それから、完全分煙のところでございますが、円山動物園内の完全分煙並びに禁煙について検討するということですね。

それから、次は、4ページの公共交通機関の利用促進を図ることの二つを検討するんですね。図るとともにというのは、図った上というふうに読めるので、どういうふうにしたらいいでしょうか。

服部委員 この書き方ですと、どちらか一つです、どちらか一つを検討しますというふうになってしまいます。

原田委員長 図ること及び駐車代金でもだめですね。

服部委員 あえて言うのだったら、検討しなさいよということであれば、公共交通機関の利用促進と駐車台数の拡大を検討する必要……。

原田委員長 「と、」にして、「公共交通機関の利用促進と、駐車台数の拡大について検討する必要がある」というふうに変更するというふうによろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

原田委員長 修正をお願いしたいと思います。

ほかにございせんか。

(「なし」と発言する者あり)

原田委員長 大体お目通しの上でのことであると思いますので、このような修正を伴った上で、この基本構想案（中間報告）をリスタート委員会がきょうの時点で承認したということにさせていただきます。

よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

原田委員長 ありがとうございます。

それでは、議題（１）の構想案（中間報告）の検討についてはこれで終了いたします。

これで、主たる議題は終了いたしました。次に、次回をどのようにするかということについて、園長からお願いします。

金澤園長 次回は、１月下旬にパブリックコメントをかける役所側の案をお示ししたいと思っています。それから、３月には、中間報告ではなくて、基本構想そのものの案が提言できるようにまとめたいと思っています。ですから、１月の末と３月の末ぐらいに、あと２回リスタート委員会を開催したいと思っています。

日程調整は、後ほどメールか何かで連絡させていただいて調整させていただきますので、よろしく願いいたします。

原田委員長 それでは、１月下旬と３月の日程については改めて決めましょうということで、よろしく願いいたします。

それでは、きょうはこういふことですが、これだけはということがございましたらお伺いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

３．閉 会

原田委員長 それでは、これで第６回リスタート委員会を終了したいと思います。

ありがとうございました。

以 上